彙　報

平成二十九年度密教文化研究所だより

本年度、密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」「密教の形成と流伝に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の柱として、研究所研究員を中核とした研究活動を展開し、伝統教学の継承と社会への普及に努めた。

各々の活動の詳細については、左記のとおりである。

【研究会】

○研究所研究会

※趣旨

研究所員・研究員の研究成果発表および学術的交流を趣旨とする。

※活動実績

十月六日

徳重弘志・岡田英作「プダク写本の経函末部に付された『註釈文』について」

十一月十七日

八木髙秀「京都『済世病院』における院長・小林参三郎と主事・清瀧智龍、布教師・真井覚深の役割と関係」

十二月一日

ドルジイ・ケルサン「チベット密教における脈と気の研究」

十二月十五日

大柴清圓「弘法大師の二十五歳得度・三十歳受戒説」

平成三十年一月十二日

渕田雲渓「南山進流における東南院寛光の所伝について」

平成三十年一月二十六日

高柳健太郎「『宗義決択集』に見る弘法大師の思想の展開」

北川真寛「真言密教における闡提成仏について―論義書を中心に―」

木下浩良「高野山奥之院発見の赤松政則宝篋印塔について」

○弘法大師著作研究会

※趣旨

研究所の事業の柱に、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」がある。本研究をおこなっていくためには、空海の文章を漢籍、注釈書を踏まえ正確にかつ忠実に読解していく作業が必要不可欠である。平成二十七年度から『秘蔵宝鑰』をテキストとして研究会を開催しその研究成果を公表するもの。

※会員

松長有慶、乾仁志、大柴清圓、加納和雄、川崎一洋、北川真寛、櫻木潤、佐藤隆彦、武内孝善、トーマス・ドライトライン、土居夏樹、中原慈良、那須真裕美、藤田光寛、松長恵史、南昌宏、米田弘仁

※活動実績

『秘蔵宝鑰』の研究会を原則として月二回行った。

（日程）	（担当箇所）	（担当者）
四月十三日	第八住心	北川真寛
四月二十七日	〃	北川真寛
五月十一日	〃	北川真寛
五月二十五日	第九住心	土居夏樹
六月八日	〃	土居夏樹
六月二十二日	〃	土居夏樹
七月十三日	〃	土居夏樹
七月二十七日	〃	土居夏樹
十月十二日	第十住心	中原慈良
十月二十六日	〃	中原慈良

十一月九日　〃　中原慈良
十一月三十日　〃　武内孝善
十二月十四日　〃　武内孝善

※前年度に引き続き、研究会の成果を『密教文化研究所紀要』別冊として以下の内容で発行した。
『秘蔵宝鑰』の研究　第二分冊（第四～第七住心）
『秘蔵宝鑰』の研究　第三分冊（第八～第十住心）

○南山教学研究会（詳細は研究員報告を参照）

※趣旨

高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をすすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続けられている論義法会に資することで、密教興隆を図る。

※参加者

土居夏樹、北川真寛、平賀由美子、高柳健太郎、小田龍哉
（以上、輪読会発表担当者）
藤田光寛、南　昌宏、中原慈良、蒲池和憲、中西雄泰、
高井知弘、高岡隆真、内海周浩、赤堀暢泰、安田弘明、
鈴木晋雄、亀井昌芳
その他、大学院生・大学生など

※活動実績

輪読会

（日程）	（内容）	（担当者）
四月二十日	「初地即極」	平賀由美子
六月一日	「初地即極」	平賀由美子
六月二十九日	「三密具普具」	北川真寛
七月二十日	〃	北川真寛
十二月二十一日	「秘鍵両部」	土居夏樹
平成三十年一月二十五日	「自性会因人」	高柳健太郎

※研究発表

平成三十年一月二十六日（於　密教文化研究所研究会）
北川真寛　「真言密教における闡提成仏について
　　―論義書を中心に―」
高柳健太郎　「『宗義決択集』に見る弘法大師思想の展開」
　　（『高野山大学大学院紀要』一六掲載予定）

○真言教学研究会（今年度新設）

※活動実績

五月十日（於　智積院）
設立祈念講演会
「真言宗の論義について―各山の論義法要の現況も含めて―」
講　師：榊　義孝（大正大学名誉教授）
　　本多隆仁（智山講伝所専門員）
　　北川真寛
十月二十九日（於　高野山東京別院）
「三密具闕・三密双修」
発表者：粕谷隆宣（真言宗豊山派総合研究院宗学研究所研究員）
　　北川真寛
　　鈴木雄太（智山伝法院常勤研究員）
平成三十年二月二十三日（於　大正大学）
「自性会因人・実行当機」
発表者：小林靖典（智山伝法院教授）
　　中村賢識（大正大学綜合仏教研究所研究員）
　　高柳健太郎

○宗学連携事業

勧学会の期間中に、勧学会出仕者に対して講義を行った（高野山の学道の歴史、『秘蔵宝鑰』について、「事六度」について）。

『秘蔵宝鑰』巻下上半の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータ化と書き下し文作成を行い、特に『打集』には語註を添付。また『本書』や『打集』の誤植や誤りを校訂し、勧学会実修に使用。

問講の謂立を集成した『法談論義要集』や『山王院並御影堂月並問講集』に収められた宗・釈論題の再治・増補を行い、現在も続けられている問講の充実に資する資料の作成を目指して活動している。そのため高野山住職会・金剛峯寺法会課などの協力を得て、前年度に引き続いて各論題の活字データ化や解説作成を完了し、『法談論義拾葉集』として出版した。

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の再治・増補に関しては高野山山内住職と共同で活動している。活動内容の詳細は「平成二十九年度南山教学研究会　活動報告」（本書五七頁）を参照願いたい。

○南山進流声明研究会（詳細は研究員報告を参照）

※趣旨

南山進流の実修および歴史・文化をはじめとする教学的裏付け・位置づけを学び、後世に伝承するもの。

※能化

宮田永明（高野山総持院上綱・南山進流声明相承者）

※会員

渕田雲渓、青木倫裕、五十嵐啓道、落合玄光、川上隆輝、北川真寛、小紫光慈、佐伯英雄、竹前魁晃、富田向真、仲田篤史、藤田尚樹、安田弘明、米澤紀幸

※活動実績

研究会（原則として毎週火曜日に開催）

四月十八日、四月二十五日、五月二十三日、七月四日、七月十一日、七月十八日、十月十日、十月三十一日、十二月五日、十二月十二日

伝授、講義の曲目は次のとおり。

『声明類聚』

「三礼」「如来唄」「云何唄」「出家唄」「梵音」「錫杖」

「散華」「対揚」「五悔」「九方便」「理趣経」「四智梵語」「心略梵語」「不動梵語」「四智漢語」「心略看護」「仏讃」「吉慶梵語」「吉慶漢語」「文殊讃」「阿弥陀讃」「四波羅蜜」「東方讃」「南方讃」「西方讃」「北方讃」「称名礼」

「法則」

「御影供法則」「祭文」「表百」「大般若法則」

※研究発表

平成三十年一月十二日（於密教文化研究所研究会）

「南山進流における仮博士の成立について」

※本事業については、主に渕田雲渓が担当。活動内容の詳細は「平成二十九年度南山進流声明研究会　活動報告」（本書五五頁）を参照願いたい。

○中世密教聖教研究会（詳細は研究所員報告を参照）

※趣旨

本研究会は、日本中世の密教に関係する聖教の研究を目的とするものである。高野山大学図書館に収蔵される聖教を中心に、重要な学術的意義を持つ未翻刻の聖教を紹介し、日本中世における密教の歴史的位置を把握することをめざす。本年度は、昨年度に引き続いて、院政期の心覚が撰述した『別尊要記（鶴林抄）』第四帖を翻刻・輪読した。

※会員

坂口太郎（高野山大学文学部助教・密教文化研究所兼任研究所員・本研究会幹事）

上野勝之（奈良大学・非常勤講師）

高橋秀城（大正大学・二松學舎大学・大東文化大学非常勤講師）

高橋悠介（慶應義塾大学斯道文庫准教授）

橋本正俊（摂南大学外国語学部准教授）

花川真子（京都大学人間・環境学研究科博士後期課程）

藤本孝一（冷泉家時雨亭文庫調査主任）

舩田淳一（金城学院大学文学部准教授・密教文化研究所委託研究員）

※活動実績

第1回　八月十五日（火）～十七日（木）

坂口が作成した『別尊要記』第四帖（底本は、高野山金剛三昧院本）の翻刻をもとに輪読（会場：高野山大学高野山キャンパス）。また、高野山霊宝館で開催された平成29年度夏期企画展「正智院の名宝」を観覧。

第2回　平成三十年二月八日（木）～二月九日（金）

『別尊要記』第四帖の校訂作業（会場：高野山大学難波サテライト教室）。

第3回　平成三十年二月二十日（火）～二月二十一日（水）

『別尊要記』第四帖の校訂作業（会場：高野山大学難波サテライト教室）。

※本事業に関しては、主に坂口太郎が担当。活動内容の詳細は、「平成二十九年度中世聖教研究会　活動報告（本書五九頁）を参照願いたい。

○巡礼遍路研究会（協賛事業）

※趣旨

四国八十八ヶ所、西国三十三所等、日本国内ならびに世界各地の巡礼に関する研究・成果発表を行うと共に、会員相互の懇親を図る。

※役員

会　　長：山陰加春夫（高野山大学名誉教授）

事務局長：柴谷宗叔（密教文化研究所委託研究員）

※会員数

二百三十三名（十二月三十一日時点　法人・団体含む）

※活動実績

第四回研究発表会開催

日　時　平成二十八年六月二十四日（土）

於：補陀洛山総持寺

記念講演

中西隆英（総持寺住職）「西国三十三所草創１３００年」

研究発表

松尾心空「胎内くぐりの旅・西国巡礼」

佐藤久光「西国観音巡礼の特徴」

瀬戸善亨「四国遍路における治療的構造と森田療法の関係性について」

中野健秀「学生と繋ぐ四国八十八ヶ所の巡礼遍路」

【講演会】

○文部科学省研究ブランディング事業

高野山アーカイブプロジェクト「新時代への高野山史研究」

日　時　平成二十九年十一月二十五日（土）

於：高野山大学松下講堂黎明館

講演内容

第1部　中世高野山の文書保管システム

山陰加春夫（本学名誉教授）

第2部　世界遺産としての高野山

辻林　浩（和歌山県世界遺産センター長）

第3部　文部科学省私立大学研究ブランディング事業

高野山アーカイブプロジェクト報告

奥山直司（密教文化研究所長）

寺西　啓（本学事務職員ＩＴ担当）

第4部　第1部～第3部合同パネルディスカッション

コーディネーター：奥山直司

パネリスト：松長有慶（本学名誉教授・密教文化研究所顧問）

山陰加春夫

辻林　浩

添田隆昭（高野山真言宗宗務総長・高野山学園理事長）

山口文章（高野山霊宝館長）

平野嘉也（高野町長）

乾　龍仁（本学学長）

櫻木　潤（本学助教）

研究員活動報告

「専任研究員」平成二十九年度活動報告

専任研究員　渕田　雲渓

【研究活動趣旨】

本学密教学文化研究所では、高野山真言宗金剛峯寺塔頭総持院宮田永明上綱を大阿様として「声明研究会」を発足している。宮田上綱は高野山における伝統の声明である南山進流において、親王院中川善教前官御房より、正嫡として血脈を相承されておられる。

本研究会は、その南山進流の血脈を何とか後世に繋がんことを目的として、本研究所内に発足することとなった。

【活動状況】

本年度は、研鑽を進めるうえで大阿様の指示のもと全体の受者を二組に分け、一組は奇数週の火曜日、二組は偶数週の火曜日として、それぞれ月2回の研究会を開催した。報告者自身も伝授を受けて研鑽に励んでいるのが、毎週行われる研究会において、大阿様との日程の調整や会所の設営等の運営を担当している。また同時に本学図書館等に残された貴重な資料などを用いて伝授における資料の作成などを試みており、それらを用いて声明における論理的解釈や歴史的変遷など学術的な研究も進めたいと考える。

＊声明研究会

・毎月　奇数週の火曜日　午後一時半～三時半　第一組
　偶数週の火曜日　午後一時半～三時半　第二組

・伝授　大阿
　宮田永明（高野山総持院上綱）
　授法者
　五十嵐啓道師（兵庫）・川上隆輝師（大阪）・佐伯英雄師（徳島）・竹前魁晃師（兵庫）・富田向真師（高野山）・三好智秀師（香川）・安田弘明師（高野山）・米澤紀幸師（兵庫）・渕田

・伝授、講義の曲目
　『声明類聚』
　「三礼」・「如来唄」・「云何唄」・「出家唄」・「梵音」・「錫杖」・「散華」・「対揚」「五悔」・「九方便」・「理趣経」・「四智梵語」・「心略梵語」・「不動梵語」・「四智漢語」・「心略看護」・「仏讃」・「吉慶梵語」・「吉慶漢語」・「文殊讃」・「阿弥陀讃」・「四波羅蜜」・「東方讃」・「南方讃」・「西方讃」・「北方讃」・「称名礼」
　「法則」
　「御影供法則」・「祭文」・「表百」・「大般若法則」

＊研究発表

・一月十二日　研究所発表
　「南山進流における仮博士の成立について」

【活動総括】

声明の伝授は大きく分けて四段階とされ、「魚山（『声明類聚』）」・「法則」・「秘讃」・「大阿闍梨」である。実際の御唱えとしての現段階は、その第二段階である「法則」に入り、「御影供法則」・「大般若法則」等を授法、研鑽を深めている段階である。

また研究報告において、南山進流の系譜における覚証院様と東南院様の正傍について考察したうえで、諸本における博士の相違点、また現在用いられている仮博士の成立等の考察を試みた。仮博士とは声明における音符の役割をなす博士を、更に便宜的に書き改めたもので、安易で理解し易い反面、どうしても誤解を生じやすいものでもある。従来、仮博士の成立においては東南院寛光の製作によるものとされてきたが、今回の研究では新たな可能性をも含めて考察しており、今後更なる研究に努めたいと考えている。

平成二十九年度研究活動報告

専任研究員　大柴　清圓

【研究活動概況】

研究者は弘法大師並びに唐代・平安期の密教に関する総合的研究を目指している。本年度の主要な研究成果は凡そ左の如くである。

一、天理図書館所蔵の教日撰『授菩提心戒儀式』の出現によって、懐疑説のあった『二教論』が大師御作と考えてほぼ問題がないことになった。『授菩提心戒儀式』には大師撰『平城太上天皇灌頂文』と『二教論』が引用されており、このことは今まで不明であった九世紀の真言宗門における大師著作の授受が、大師から円行そして教日へと相伝されていったことを推測せしめるものである。

二、京都大原三千院門跡所蔵の『菩提心論』には、智証大師円珍が記した奥書と考えられる本奥書を有していることが調査によって明らかとなった。すなわち、三千院本『菩提心論』は智証大師請来本の転写本であり、冒頭に「大阿闍梨」とあることから、智証大師が入唐留学した当時の青龍寺本において既に「大広智阿闍梨」から「大阿闍梨」に誤写されていたことが、ほぼ明らかとなった。

三、大師の得度と受戒の時期に関して、延暦二十四年の太政官符に対する従来の誤解を指摘し、延暦二十二年とする大師「戒牒文」と大同三年の太政官符との整合性から、大師の受具足戒時期は延暦二十二年四月（三十歳）であることを論じた。また従来は全く考慮されていなかった得度後の沙弥の時期に関して、主に伝教大師の例を挙げて、その時期が少なくとも二・三年はあったことを論じ、『聾瞽指帰』仮名乞児論ならびに大師真作『三教指帰』序文の内容から、二十四歳以前の大師は官度していないことを明らかとし、加えて桓武天皇の制によって大師の得度時期が『貞観座主伝』・寛平法皇撰「請賜諡号表」に記される所の二十五歳に限定されることを結論とした。

四、『梵字悉曇字母幷釋義』の現行本は挙って「代彼口實」で終わり、一巻とする。しかし、高野山大学図書館所蔵本は「代彼口實」以降にも、『大般若経』・『大智度論』・『大日経疏』・『華厳経』などの引用文が続いている。殊に『梵字悉曇字母幷釋義』の序文に挙げる経証の中で現行本には存在しない大毘盧遮那経と華厳経関係の引用があり、これらは「評曰」で繋がっていることから、運敞が提唱する如く『梵字悉曇字母幷釋義』は元来二巻であり、その第二巻が『悉曇釋』からの引用である可能性が高いと考えられる。

五、狩場明神に関して、そのモデルとなった犬黒比が皇別の牟毛津氏であり、現在も高野山麓にある長谷の丹生神社に祀られていることを報告した。また大師伝に現れるいわゆる転法輪寺の狩場明神は開創前の大師を富貴へ引導した人物であって、高野山へ導いたと考えられる宮本の丹生狩場明神社に祀られる狩場明神とは別人であることを論じた。その宮本の狩場明神は長谷宮の犬黒比の子孫と思われ、大師の壇場伽藍建立に際して高野山界隈にいた丹生氏を統率した現場のリーダーであったと思われる。

【研究発表】

- 「天理大学附属天理図書館所蔵・教日師撰『授菩提心戒儀式一巻』について」平成二十九年度密教研究会、七月七日、高野山大学。
- 「『弁顕密二教論』の弘法大師真作説―教日師撰『授菩提心戒儀式』の引用文を根拠に―」日本印度学仏教学会第六十八回学術大会、九月三日、花園大学。
- 「京都大原三千院門跡所蔵の『菩提心論』―智証大師請来本と「大阿闍梨」の誤写説―」第五十九回天台宗教学大会、十月二十八日、大正大学。
- 「弘法大師の二十五歳得度・三十歳受戒説」高野山大学密教文化研究所研究会、十二月十五日、高野山大学。
- 「鑑真和上の東渡と空海大師の受戒」中国大明寺国際学会、平成三十年三月（予定）。

【論文】

- 「天理大学附属天理図書館所蔵・教日師撰『授菩提心戒儀式』について―『弁顕密二教論』と『平城太上天皇灌頂文』の引用文―　付・翻刻文」『密教文化』二百三十九。
- 「教日撰『授菩提心戒儀式』と『弁顕密二教論』」『印度学仏教学研究』

六十六。

● 「京都大原三千院門跡所蔵の『菩提心論』―智証大師請来本と「大阿闍梨」の誤写説―」『天台学報』六十。

● 「『秘蔵宝鑰』第四・五・六・七住心の校訂研究」『高野山大学密教文化研究所紀要』別冊二。

● 「狩場明神考」『密教学会報』五十六。

● 「弘法大師の二十五歳得度・三十歳受戒説」『空海研究』五。

● 「鑑真和上の東渡と空海大師の受戒」中国大明寺。

● 「『梵字悉曇字母幷釋義』と『悉曇釋』引用説―付・高野山大學圖書館所藏『梵字悉曇字母幷釋義　御作』翻訳本―」『高野山大学密教文化研究所紀要』三十一。

● 「『授菩提心戒儀式』引用書の校訂研究」『高野山大学大学院紀要』十七。

南山教学研究会　平成二十九年度活動報告

研究所員　北川　真寛

【研究活動概況】

南山教学研究会では、高野山に伝わる論義書の研究、ならびにそれらの整理作業をすすめ、弘法大師を含めた真言密教の展開を明らかにし、教学研究のみならず現在も続けられている論義法会に資することで、密教興隆を図ることを目的として活動している。

そのため、平成二十五年度に密教文化研究所所属の研究所員や研究員を中心とした有志による南山教学研究会を発足させ、平成二十九年度は、次のような活動を実施している。

①南山の論義書の輪読会

②論義に関する調査・研究による研究発表と学術雑誌への投稿

③南山・智山・豊山による論義研究会

④高野山勧学会への協力

　i 勧学会における講義の実施・聴聞

　ii 勧学会で用いられる『本書』と『打集』の活字化と校訂

⑤山内論義で用いられる論義資料の調査と再治・増補

これらの総合的かつ横断的な活動により、南山教学の特徴を少しずつ解明している。ただしまだまだ多くの論題が残されていて、今後もさらにこれらの活動を進めていく。

参加者：土居夏樹　兼任研究所員・高野山大学准教授
北川真寛　委託研究員（事務局）
平賀由美子　受託研究員
高柳健太郎　受託研究員
小田龍哉　同志社大学大学院生
（以上、輪読会発表担当者）
藤田光寛　高野山大学元学長
南　昌宏　高野山大学教授

中原慈良　委託研究員
蒲池和憲　受託研究員
中西雄泰　高野山引摂院
高岡隆真　高野山明王院
内海周浩　高野山本願院
安田弘明　高野山親王院
亀位昌芳　高野山大学大学院生
その他、大学院生・大学生など

【輪読会の開催】

・四月二十日(木) 十三時二〇分～十四時五〇分
　平賀由美子 「初地即極」
・六月一日(木) 十五時～十六時三〇分
　平賀由美子 「初地即極」
・六月二十九日(木) 十五時～十六時三〇分
　北川真寛 「三密具不具」
・七月二十日(木) 十五時～十六時三〇分
　北川真寛 「三密具不具」
・十二月二十一日(木) 十三時二〇分～十四時五〇分
　土居夏樹 「秘鍵両部」
・一月二十五日(木) 十五時～十六時三〇分
　高柳健太郎 「自性会因人」

【研究発表・論文】

・一月二十六日(金)　密教文化研究所研究会
　北川真寛「真言密教における闡提成仏について―論義書を中心に―」
・一月二十六日(金)　密教文化研究所研究会
　高柳健太郎「『宗義決択集』に見る弘法大師思想の展開」
・土居夏樹「『宗義決択集』における「遍計所執捨不捨」について」
　(『高野山大学論叢』五三)
・高柳健太郎「『宗義決択集』に見る弘法大師の思想の展開
　―「五常引業」を題材として―」(『高野山大学密教文化研究所紀要』三一)

【真言教学研究会】

・五月十日(水) 十時～十一時三〇分　於 智積院
　設立記念講演会「真言宗の論義について―各山の論義法要の現況も含めて―」
　講　師：榊　義孝（大正大学 名誉教授）
　　本多隆仁（智山講伝所 専門員）
　　北川真寛
・十月二十九日(日) 九時～十二時　於 高野山東京別院
　「三密具闕・三密双修」
　発表者：粕谷隆宣（真言宗豊山派総合研究院宗学研究所研究員）
　　北川真寛
　　鈴木雄太（智山伝法院常勤研究員）
・二月二十三日(金) 十四時～十七時　於 大正大学
　「自性会因人・実行当機」
　発表者：小林靖典（智山伝法院教授）
　　高柳健太郎
　　中村賢識（大正大学綜合仏教研究所研究員）

【宗学連携事業】

・勧学会の期間中に、勧学会出仕者に対して講義を行った（高野山の学道の歴史、『秘蔵宝鑰』について、「事六度」について）。
・『秘蔵宝鑰』巻下 上半の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータ化と書き下し文作成を行い、特に『打集』には語註を添付。また『本書』や『打集』の誤植や誤りを校訂し、勧学会実修に使用。
・問講の調立を集成した『法談論義要集』や『山王院並御影堂月並問講集』に収められた宗・釈論題の再治・増補を行い、現在も続けられている問講の充実

に資する資料の作成を目指して活動している。そのため高野山住職会・金剛峯寺法会課などの協力を得て、前年度に引き続いて各論題の活字データ化や解説作成を完了し、『法談論義拾葉集』として出版準備中。

※本事業に関しては、主に北川真寛が担当し、問講の再治・増補に関しては高野山山内住職と共同で活動している。

平成二十九年度 中世密教聖教研究会の活動報告

研究所員　坂口　太郎

【研究会の趣旨】

本研究会は、日本中世の密教に関係する聖教の研究を目的とするものである。高野山大学図書館に収蔵される聖教を中心に、重要な学術的意義を持つ未翻刻の聖教を紹介し、日本中世における密教の歴史的位置を把握することをめざす。本年度は、昨年度に引き続いて、院政期の心覚が撰述した『別尊要記（鶴林抄）』第四帖を翻刻・輪読した。

【研究会のメンバー（大学院生以上）】

坂口太郎（高野山大学文学部助教、密教文化研究所兼任研究所員、本研究会幹事）
上野勝之（奈良大学非常勤講師）
高橋秀城（大正大学・二松學舎大学・大東文化大学非常勤講師）
高橋悠介（慶應義塾大学斯道文庫准教授）
橋本正俊（摂南大学外国語学部准教授）
花川真子（京都大学人間・環境学研究科博士後期課程）
藤本孝一（冷泉家時雨亭文庫調査主任）
舩田淳一（金城学院大学文学部准教授、密教文化研究所受託研究員）

【平成二十九年度の活動】

第一回　平成二十九年八月十五日（火）～十七日（木）
坂口が作成した『別尊要記』第四帖（底本は、高野山金剛三昧院本）の翻刻をもとに輪読（会場：高野山大学高野山キャンパス）。また、高野山霊宝館で開催された平成二十九年度夏期企画展「正智院の名宝」を観覧。

第二回　平成三十年二月八日（木）～二月九日（金）
『別尊要記』第四帖の校訂作業（会場：高野山大学難波サテライト教室）。

第三回　平成三十年二月二十日（火）～二月二十一日（水）

『別尊要記』第四帖の校訂作業（会場：高野山大学難波サテライト教室）。

【平成二十九年度の成果と課題】

幹事である坂口は、『別尊要記』を精読した上で、同書の情報源や受容の実態について研究を進めた。その概要は、以下の通りである。

まず、第四帖には「侍従律師」という人物の言談が幾度も引かれるが、この「侍従律師」とは、撰者である心覚と親密な関係を結んでいた、醍醐寺勝賢であることが分かった。勝賢の口説には、その父藤原通憲（法名信西）に関わる逸話が多く、通憲の博識ぶりを鮮やかに示しているのは興味深い。

また、『別尊要記』が後代に与えた影響を明らかにするため、同書を利用した事例を調査した。とくに重要であるのは、中世前期の文例集として知られる『雑筆要集』に、『別尊要記』の引用が確認できる事実である。このことは、『雑筆要集』の編者像にも、一つの示唆を与える。従来、『雑筆要集』の編者については、下級官人あるいは多田源氏の関係者が想定されていたが、ともに密教の事相書を利用しえたとは考えにくい。むしろ『雑筆要集』に『別尊要記』の引用が見られるのは、『雑筆要集』の編者が、真言僧（それも高野山僧）であったことを暗示するものではないだろうか。この点については一層考察を深め、後日に独立した論文として発表する予定である。

以上

密教文化研究所構成員名簿（平成三十年三月現在）

○所長
奥山直司　（本学教授）

○研究所顧問
松長有慶　（本学名誉教授）

○委託研究員
川﨑一洋　（本学非常勤講師）
北川真寛　（本学非常勤講師）
静　春樹　（本学非常勤講師）
柴谷宗叔　（巡礼遍路研究会事務局長）
鈴木晋怜　（智山伝法院副院長）
武内孝善　（本学名誉教授）
中原慈良　（本学非常勤講師）
那須真裕美　（種智院大学非常勤講師）
生井智紹　（本学名誉教授）
室寺義仁　（滋賀医科大学教授）
森　雅秀　（金沢大学教授）
米田弘仁　（孝恩寺住職）

○専従研究所員
奥山直司　（所長兼務）

○兼任研究所員
坂口太郎　（本学助教）
櫻木　潤　（本学助教）
佐藤隆彦　（本学教授）

土居夏樹　（本学准教授）
トーマス・ドライトライン（本学教授）
松長恵史　（本学准教授）
南　昌宏　（本学教授）
森本一彦　（本学准教授）

○専任研究員
大柴清圓　（中国国立中山大学中国語言文学系古文字学専攻博士課程修了　博士〈文学〉）
渕田雲渓　（本学非常勤講師）

○受託研究員
アーロン・プロフィット　（ニューヨーク州立大学オールバニ校助教）
池田一城　（高野町教育委員会文化財専門職員）
石部道明　（本学大学院博士後期課程単位取得退学）
岡田英作　（京都大学非常勤講師）
神田英昭　（本学大学院博士後期課程単位取得退学）
蒲池和憲　（随心院小野講伝所研究員）
黒木賢一　（大阪経済大学教授）
高柳健太郎　（本学非常勤講師）
辻村優英　（神戸大学経済経営研究所ジュニアリサーチフェロー）
テンジン・ウセル（ダライ・ラマ法王庁派遣）
徳重弘志　（本学非常勤講師）
ドルジイ・ケルサン　（京都大学こころの未来研究センター教務補佐員）
中谷征充　（本学大学院博士後期課程修了　博士〈密教学〉）
沼野直子　（金華山天皇寺高照院代表役員）
野口博司　（本学非常勤講師）
平賀由美子　（本学大学院博士後期課程単位取得退学）
舩田淳一　（金城学院大学文学部准教授）
八木髙秀　（東雲八木診療所院長）
吉田　唯　（近畿大学非常勤講師）

○研究所事務室
木下浩良
橋本亜子
野口博司
波多野智人

『密教文化研究所紀要』編集委員会規程

第1条　密教文化研究所（以下「研究所」という。）に、『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）編集委員会（以下「編集委員会」という。）を設ける。

第2条　編集委員会は、次の委員をもって構成する。

（1）研究所長

（2）専従研究所員

（3）「紀要」編集担当者

2　編集委員長は研究所長がこれに当たる。研究所事務室長は、幹事として編集委員会の事務を処理する。

第3条　編集委員会は研究所長が招集し、その議長となる。議長に事故ある時は、互選によって議長を選出する。

第4条　編集委員会は、次の事項を審議し、研究所協議会に報告する。

（1）「紀要」に寄稿された原稿の掲載の可否および掲載の時期の決定。

（2）「紀要」寄稿者への補筆および修正の要請。

第5条　委員の任期は1年とする。ただし重任を妨げない。

第6条　この規程の改廃は、研究所協議会の議を経て、研究所長が決定する。

附　則　この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附　則　この規程は、平成14年5月22日から施行する

『密教文化研究所紀要』寄稿規程

第1条　『密教文化研究所紀要』（以下「紀要」という。）は、日本およびアジア地域などにおける密教の思想と文化に関する研究論文、研究ノート、研究資料、書評などを掲載発表することにより、密教文化の研究の発展に寄与することを目的とする。

第2条　「紀要」に寄稿することができる者は、次のとおりとする。

（1）研究所長

（2）研究所員

（3）研究員

（4）編集委員会が適当と認める者

第3条　原稿は、原則として400字詰原稿用紙70枚以内とする。

第4条　原稿は完全原稿とする。執筆者校正は再校までとし、校正時の大幅な改変・追加等は認めない。

第5条　寄稿された原稿は、査読委員会の査読を経て、編集委員会が掲載の可否および掲載の時期を決定する。また、編集委員会は、寄稿者に補筆および修正を求めることができる。

第6条　原稿料の支払い、掲載料の徴収は行なわない。

第7条　寄稿者には、掲載誌2部および抜刷30部を贈呈し、その経費は研究所が負担する。

附　則　この規程は、平成9年4月1日から施行する

執筆者紹介（掲載順）

大柴清圓　密教文化研究所専任研究員
静　春樹　密教文化研究所委託研究員
高柳健太郎　密教文化研究所受託研究員
徳重弘志　密教文化研究所受託研究員

編集後記

○『高野山大学密教文化研究所紀要』第三十一号をお届け致します。四人の研究員による論考は、本年度の密教文化研究所における研究成果の一部です。読者におかれましては、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

○本年度も、研究所研究会、弘法大師著作研究会、南山教学研究会、南山進流声明研究会、中世密教聖教研究会がそれぞれに活動しました。

この内、弘法大師著作研究会は、昨年度の第一分冊に引き続き、第二、第三分冊を刊行して『秘蔵宝鑰』の研究を完了しました。来年度からはテーマを新たに研究活動を展開する予定です。

また、今年度から私立大学研究ブランディング事業「高野山アーカイブプロジェクト」を密教文化研究所が担当することになり、「高野山アーカイブ」の構築に鋭意努めております。詳しくは大学ホームページをご参照ください。

○今後とも密教文化研究所の活動にお力添えの程宜しくお願い申し上げます。

高野山大学密教文化研究所紀要　第三十一号

平成三十年三月二十一日　印　刷
平成三十年三月二十五日　発　行

編集者　密教文化研究所
代表者　奥　山　直　司

発行所　密教文化研究所
和歌山県伊都郡高野町高野山三八五　高野山大学
電話（〇七三六）五六―二三九〇　〒六四八―〇二八〇

印刷所　株式会社　協　和
和歌山県海南市南赤坂五―三
電話（〇七三）四八三―五二一一　〒六四二―〇〇一七

©Research Institute
of Esoteric Buddhist Culture
Koyasan University
Printed in Japan 2018